

[その他]

## 新型コロナウイルス感染症禍における母性看護学実習の工夫と課題 (第2報)

— シミュレーション演習の実践報告 —

大橋 知子<sup>1,\*</sup> 牛之濱久代<sup>1,\*</sup> 森口 範子<sup>2,\*</sup>

### 【要 旨】

本稿では新型コロナウイルス感染症禍の2020年に実施した母性看護学実習の概要と課題についてシミュレーション演習（以下演習）に焦点を当て報告する。

母性看護学実習の目的、目標、記録、評価、実習配置は変更せず実習目標を達成できるよう工夫した。演習内容は前年度、臨地実習で多くの学生が見学もしくは実施していた項目を精選し「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「沐浴」「妊婦健診」「保健指導」とした。「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「沐浴」「保健指導」演習は、学生が立案した看護計画に基づき行った。学生は事前に学校が閉鎖された場合のリモート実習に備え、演習内容を録画した。演習では教員1名が母親役、「沐浴」では指導者役となり、学生1人ひとりに対して演習を行った。1人の学生の演習時間は振り返りを含め、1項目につき20分とした。

本演習では、学生は立案した看護計画に基づき演習を実施したため、立案した計画と実施が結びついていて、学生から「看護過程を展開する意味が理解できた」という意見もあった一方で、「時間がなく、大変だった」という意見もあった。タイムマネジメントも含め、アドバイスをを行う必要がある。教員が母親として学生の問診や援助に呼応していくことは、コミュニケーション能力を養うことにつながったと考える。一方で、学生の中には評価者である教員が母親役であるため威圧感を受け、演習に集中できなかった学生もいる可能性はある。また、臨地実習では、実習指導者や母親からのフィードバックによって、実習に意欲的に取り組むことができる学生もいる。今後は模擬患者に依頼することも含め検討していく。

**キーワード：母性看護学、実習、新型コロナウイルス、学内演習、実践報告**

### I. はじめに

2020年4月に発令された新型コロナウイルス（以下COVID-19）対策としての緊急事態宣言以降、臨地実習は学内実習やリモートを利用した遠隔実習への変更を余儀なくされた。本校の母性看護学実習においても学内実習が想定されたため、文部科学省及び厚生労働省の事務連絡（2020年2月28日付）を踏まえ、臨地実習の学びと同様の学びを確保するために工夫を凝らして実習を実施した。

さらに、母性看護学実習には他領域とは異なる事

情がある。看護系大学の増加や少子化の進展に伴い、母性看護学実習の実習施設確保は年々困難となっている。本学の母性看護学実習施設の確保も困難を極めており、通常の実習期間外の休暇期間に実習配置をしている。

2015年厚生労働省<sup>1)</sup>は母性看護学実習における臨地実習について、病院以外の施設も実習施設に含めることができること、さらに臨地実習を充実させるために実践活動の場以外で行う学習の時間を、臨地実習に含めて差し支えないことを示した。2019年人口動態統計<sup>2)</sup>によると、出生数は2018年から5万3,161人減の86万5,239人となり、今後も看護学生が

<sup>1,\*</sup>九州看護福祉大学看護福祉学部 看護学科、<sup>2,\*</sup>元九州看護福祉大学看護福祉学部 看護学科

妊産褥婦・新生児と接する機会は減少することが予想される。COVID-19終息後も母性看護学実習については、学内実習への移行を検討する時期が遠からず訪れる可能性がある。

本年度実施した母性看護学実習を振り返ることは、COVID-19下における母性看護学実習の工夫と課題を報告するだけでなく、病院以外の施設で行う母性看護学実習を構築する際の資料となると考えた。

2020年度母性看護学実習はCOVID-19の感染拡大に伴い、臨地実習が困難な状況になることが予想されたため、感染状況に柔軟に対応できるような内容に変更した。変更した結果、突然実習が中止となった場合でも、混乱なく実習を進めることができた。詳細については第1報として報告した。

本稿ではCOVID-19の影響を受けて実施した母性看護学実習の演習内容と工夫についてシミュレーション演習（以下演習）に焦点を当てて、振り返りと課題を報告する。

## Ⅱ. 演習の概要

### 1. 実習目的・目標

母性看護学実習の目的・目標は以下の通りである。本来の目的・目標は変更せず、実習内容を変更することで達成できるよう工夫した。

#### 1) 実習目的

母性看護学で学んだ知識、技術を統合し、周産期における母子とその家族に対し、身体的・心理的・社会的特性を理解し、個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、リプロダクティブヘルス／ライツの観点から、周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題と、生涯を通じた健康支援の必要性および看護について考察する。

#### 2) 実習目標

(1) 周産期の母子と家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、各期の適応の過程を明らかにすることができる。

① 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理を述べることができる。

② 対象者の身体的・心理的・社会的特性を記述できる。

(2) 周産期の母子とその家族に対し看護過程を展開できる。

① 系統的に情報収集し、情報を総合的に関連づけてアセスメントすることができる。

② アセスメントに基づき、対象者のケアニーズを明らかにし、看護上の診断を抽出できる。

③ 母子とその家族に対して、根拠に基づいた看護が計画できる。

④ 看護計画に基づき安全・安楽を考慮した個別的なケアを実践し、評価できる。

(3) リプロダクティブヘルス／ライツの観点から、周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。

① 周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題について考えることができる。

② 対象者の健康課題を踏まえた健康教育の意義、方法について考えることができる。

(4) 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。

① 生命の尊厳や対象者の尊重について認識を深め、倫理的配慮を持った態度と行動がとれる。

② 周産期の母子とその家族を取り巻く社会システムおよび地域社会におけるサポート資源について学び、妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について考察できる。

③ 母子保健医療チームメンバーとして適切な人間関係を作り、報告・連絡・相談ができる。

④ グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し、協力することができる。

⑤ 看護学生として基本的な行動がとれる（挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど）。

(5) 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。

① 自己の行動や気持ちを振り返り、記録やカンファレンスなどで表現できる。

② 今後の学習課題について述べるができる。

### 2. 実習における演習の位置づけと内容

#### (1) 演習に関連する実習目標

演習に関連する実習目標は以下の通りである。

・ 周産期の母子とその家族に対し看護過程を展開できる。

・ リプロダクティブヘルス／ライツの観点から、

周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。

- ・看護学生として基本的な行動がとれる。
- ・自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。

## (2) 演習内容

前年度、臨地実習で多くの学生が見学もしくは実施し、工夫すれば臨地実習を再現することが可能と思われる内容を精選した。

教員で協議した結果、演習内容は「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「沐浴」「妊婦健診」「保健指導」とした。「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「沐浴」「保健指導」については、仮想事例（以下事例）、1週目に臨地実習を行うことができた学生については受け持ち褥婦及び新生児を想定して、経験していない項目の演習を行った。

「妊婦健診」については、事例の妊娠後期の妊婦健診を想定して行っていた。事例の一つに妊婦健診を受けていない、社会的問題のある事例を提示していたため、この事例を受け持った学生には、別事例を提示した（表1）。

教員で6、7月の妊婦健診の演習を振り返った。妊婦健診については、別事例を提示することで学生の理解が容易で、学生同士の演習練習がスムーズにいくことがわかった。8月以降の妊婦健診演習は、全学生に別事例を提示し、実施。

## (3) 演習日程および全実習時間に占める演習時間

母性看護学実習は2単位90時間である。全てが学内実習であった学生は、母性看護学実習では1週目

に情報収集を行い、問題を抽出、計画を立案した。

2週目に立案した計画に基づき実施、評価を行った。演習は事例の実施計画に基づき2週目に行った。学生数や担当できる教員数、教員の講義日等によって、演習日と演習内容を調整し、実習初日に学生に提示した（表2）。

表1 妊婦健診事例

A氏、28歳、初産婦。定期的に妊婦健康診査を受けている。本日、36週4日で妊婦健康診査に来院。身長160cm、非妊時体重54kg、会社員、産前産後休暇及び育児休暇取得予定
<b>【前回34週4日の健診及び保健指導結果】</b>
体重60kg、血圧108/64mmHg、検尿：尿蛋白（-）、尿糖（-）、子宮底長30cm、腹囲88cm、胎児推定体重（EFBW）2,500g、第2頭位、胎児心拍数140bpm、胎動活発腹部緊満なし、性器出血なし、下肢浮腫なし、腰痛軽度、便秘⇒緩下剤処方（2週間分）バースプラン立案、健診終了後、パートナーと両親学級に参加
<b>【直近の検査結果】</b> 血液検査結果：Hb.10.2g/dL、Ht.32.8%（30週）⇒鉄剤処方（2週間分）、50g OGTT120mg/dL（30週）
陰培養検査：クラミジア（-）、GBS（-）（32週）
<b>【本日の健診】</b>
体重61kg、血圧116/72mmHg、検尿：尿蛋白（-）、尿糖（-）、下肢浮腫（+）
胎児推定体重（EFBW）：2,680g、第2頭位
血液検査結果：Hb.10.8g/dL、Ht.33.0%
内診結果：子宮口未開大、展退30%未満、児頭下降度（ST）-3、子宮口位置後方、頸管硬

全日程が学内実習であった学生は演習準備として

表2 シミュレーション演習学生配置と教員配置例

演習1日目			演習2日目					演習3日目						
担当	教員1	教員2	担当	教員1		教員2		教員3	教員4		教員5			
内容	新生児健康診査	褥婦健康診査	内容	新生児健康診査	沐浴	褥婦健康診査	沐浴	妊婦健診	保健指導	保健指導	妊婦健診	沐浴	沐浴	
9:30	学生1	学生13	9:30	学生13		学生7		学生1	学生1	学生12	学生13		学生5	
9:50	学生2	学生14	9:50	学生14		学生8		学生2	学生2	学生13	学生14		学生6	
10:10	学生3	学生15	10:10	学生15		学生9		学生3	学生3	学生14	学生15		学生7	
10:30	学生4	学生16	10:30	学生16		学生10		学生4	学生4	学生15	学生16		学生8	
10:50	学生5	学生17	10:50	学生17		学生11		学生5	学生5	学生16	学生17		学生9	
11:10	学生6	学生18	11:10	学生18		学生12		学生6	学生6	学生17	学生18		学生10	
11:30	学生7	学生1	11:30		学生1		学生3	学生7	学生7	学生18		学生13	学生11	
11:50	学生8	学生2	11:50		学生2		学生4	学生8	学生8			学生14	学生12	
	休憩			休憩						休憩				
13:30	学生9	学生3	13:30					学生9	学生9	学生8	学生10		学生15	学生17
13:50	学生10	学生4	13:50					学生10	学生10				学生16	学生18
14:10	学生11	学生5	14:10					学生11	学生11					
14:30	学生12	学生6	14:30					学生12	学生12					

看護過程の展開、DVD 視聴、模擬褥婦（教員）への問診、演習項目の練習、ビデオ録画を1週目に行った。2週目は、看護計画で立案した保健指導の指導案の作成及び実施、評価、演習計画の立案及び実施、評価と2週間の振り返りを行った。具体的な2週間の計画については、資料1に示す。

担当学生の人数、教員数、教育効果を考慮し、実習内容の順序を状況に応じて変更した。

(4) 実習全体に占める演習評価

実習評価項目は20項目で構成されており、各項目5～2点の4段階で評価した。各点数は別途作成した評価表に沿って実習指導教員が評価を行い、その後領域教員で検討し最終評価を行った。20項目の中で、演習内容のみで評価する項目は2項目10点分を演習のみで評価、その他の18項目合計80点分については、演習内容に加え、実習記録、実習全体への取り組み、カンファレンスでの発言等を考慮し評価を行った。80点分については、演習内容と実習記録、実習全体への取り組み、カンファレンスでの発言各項目に明確な点数配分は行なわなかった。

Ⅲ. 演習の実際

1. 実習配置及び学生人数

原則、本来の実習配置は変更しなかった。よって学生は6月から2月に実習を行った。COVID-19感染症拡大により、学校が閉鎖される可能性が高くなった2月中旬に配置していた学生は2週間前倒して実習を行った。

母性看護学実習の実習評価対象学生は128名であった。その内87名が実習期間全て学内実習であった。11名が1日のみ臨地実習であった。1日のみ臨地実習であった学生は、臨地で受け持った褥婦及び新生児の情報を用いて看護過程を展開し、演習を学内で行った。

1週目臨地実習を行った学生は経験できなかった項目のみ2週目に演習を行った。従って、全項目の演習を行った学生は87名であった。

2. 演習までの準備

教員は、学生が希望すれば、いつでも練習ができるように、物品の準備及び演習室を確保した。学生は学校が閉鎖されリモートを利用した実習に備え、

表3 褥婦の健康観察評価表

学籍番号	氏名	評価項目	学生自己評価	教員評価
		必要物品の準備と確認ができる	A B C	A B C
		褥婦に診察の目的、方法が説明できる	A B C	A B C
バイタルサイン		体温・脈拍・血圧測定ができる	A B C	A B C
		計測値のアセスメントができる	A B C	A B C
		計測結果について褥婦に説明できる	A B C	A B C
乳房		乳房の型について観察できる	A B C	A B C
		乳頭の観察ができる	A B C	A B C
		乳輪の観察ができる	A B C	A B C
		乳管開通の観察ができる	A B C	A B C
		乳汁分泌の観察ができる	A B C	A B C
		褥婦の自覚症状(痛みの有無、その他)を観察できる(問診)	A B C	A B C
		乳房および乳汁分泌状態についてアセスメントができる	A B C	A B C
		授乳に関する褥婦の訴えを聞き取ることができる	A B C	A B C
子宮復古		子宮底高の触診ができる	A B C	A B C
		子宮硬度の触診ができる	A B C	A B C
		悪露の観察ができる(問診)	A B C	A B C
		後陣痛の観察ができる(問診)	A B C	A B C
		子宮復古状態のアセスメントができる	A B C	A B C
創部(会陰切開部)		会陰切開創部の観察項目が言える	A B C	A B C
		会陰切開創部の観察ができる(創部痛について問診)	A B C	A B C
		創部の治癒状態をアセスメントできる	A B C	A B C
外性器		外性器の観察目的と観察項目が言える	A B C	A B C
		外性器の観察ができる	A B C	A B C
		外性器の状態をアセスメントできる	A B C	A B C
肛門		肛門の観察ができる	A B C	A B C
		肛門の状態をアセスメントできる	A B C	A B C
全身状態		観察項目が言える	A B C	A B C
		排尿について問診ができる	A B C	A B C
		排便について問診ができる	A B C	A B C
		食事について問診ができる	A B C	A B C
		睡眠について問診ができる	A B C	A B C
		活動について問診ができる	A B C	A B C
		浮腫の観察ができる	A B C	A B C
	貧血について観察ができる	A B C	A B C	
		褥婦の全身状態についてアセスメントできる	A B C	A B C
心理状態 その他		褥婦の心理的変化を踏まえた観察ができる(問診)	A B C	A B C
		褥婦の心理的状態についてアセスメントできる	A B C	A B C
		その他不快症状の観察ができる(問診)	A B C	A B C

評価基準：A:よくできる B:できる C:できない

表4 新生児健康観察評価表

	学生評価	教員評価
I. 準備		
1. 手洗い後、手を温めたか。		
2. 必要物品の準備や確認を行ったか。		
II. バイタルサイン測定		
1. 新生児の意識レベルを確認したか。		
2. 手早く最小限の刺激で行ったか。		
3. 胸腹部を観察できるように衣服を開いたか。		
4. 胸腹部の動きの数を1分間カウントしたか。		
5. 呼吸のリズムや異常呼吸の有無を観察したか。		
6. 聴診前には、聴診器を手で温めたか。		
7. 左右の肺音聴取のために、正しい位置に聴診器をあてることができたか。		
8. 心音聴取部位に正しく聴診器をあてることができたか。		
9. 心拍数を1分間測定したか。		
10. 心拍のリズム不整や心雑音の有無、チアノーゼを観察したか。		
11. 体温計を適切な角度で適切な位置に挿入したか。		
12. 体温計の挿入位置が変わらないように見を支えたか。		
13. 体温低下を防ぐために皮膚の露出を最小限にしたか。		
14. 診察に合わせて声をかけたか。		
III. 全身の観察		
1. 聴診前には、手が温かいことを確認したか。		
2. 頭から足に向かって、視診・触診・聴診の順番で観察ができたか。		
3. 何のために観察するのか目的を意識しながら、観察できたか。		
4. 新生児を側臥位にする時は、安全に配慮できたか。		
5. 診察に合わせて声かけができたか。		
6. 観察終了後は、新生児の肌着を整えたか。		

評価基準 A:よくできる B:できる C:できない

演習内容を学生の携帯電話にて録画した。

### 1) 褥婦の健康観察・新生児の健康観察・沐浴・保健指導演習について

(1) データベースアセスメント、関連図作成・看護問題抽出、看護計画立案を行った。

(2) 褥婦の健康観察については、流れを視覚的に確認できるDVD<sup>注1)</sup>を視聴し、その後学生が立案した看護計画と技術評価表(表3)に沿って産褥子宮モデル(KOKEN製)と乳房マッサージモデル(KOKEN製)を用いて演習練習を行った。

(3) 新生児の健康観察と沐浴については、教科書<sup>注2)</sup>に添付されているQRコードから流れを視覚的に確認できる映像を視聴し、その後学生が立案した看護計画と技術評価表(表4,5)に沿って練習を行った。新生児の健康観察はバイタルサインベビーII(京都科学製)、沐浴はコーケンベビー(KOKEN製)を用いて行った。

(4) 保健指導については、立案した教育プラン中で褥婦および家族に実施する保健指導(退院指導、

授乳指導、育児指導、沐浴指導など)の中から、一つを選択し、指導案を作成した。指導案に基づいて、必要に応じてパンフレットを作成し、必要な物品(授乳まくら、乳房モデルなど)を教員に申し出て準備した。指導案については、教員に提出し指導を受けた。演習に向けて、学生同士で練習を実施した。

### 2) 妊婦健康診査演習について

(1) 学生は提示された事例の情報について、アセスメントを行い必要な診査項目、保健指導及び診査方法について学習を行った。

(2) 学生は妊婦健診の流れを視覚的に確認できるDVD<sup>注3)</sup>を視聴し、妊婦腹部触診モデルII型(Koken製)を用いて計画した診査方法と技術評価表(表6)に基づいて、練習を行った。

## 3. 演習の実施と演習後の教員との振り返り

「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「妊婦健診」「保健指導」については、教員1名が母親役となり、「沐浴」については教員が指導者役となり、

表5 沐浴演習評価表

項目	評価内容/発語内容	自己評価	教員評価	評価基準 A:よくできる B:できる C:できない	
職業倫理	説明責任			適切な言葉で声に声をかけられることができる。 *以上を満たしていればA、一つでも欠けていればB、声をかけていなければC	
ケア実践	必要物品と湯の準備			必要な物品を準備することができる。湯温を確認できる。 □湯温計 □石鹸 □沐浴布 □ガーゼ □バスタオル □着替え衣服一式 □オムツ(紙オムツ又は布オムツ/カバー) □綿棒(誤嚥用・耳・鼻用)(アルコール) □ヘアブラシ □洗面器 湯温は38~40度と答える。	
	沐浴技術	① 湯を湯からあげた後の準備ができる。長着と短肌着をセットし、オムツを置き、その上バスタオルを置く。周囲に綿棒セット、ヘアブラシを置いておく。			すぐ着せられるよう下から、長着一短肌着一紙おむつ一バスタオルの順に重ねておく。 耳、鼻掃除用の綿棒とヘアブラシが使いやすい位置に準備されている。
		② ①の男児の服を脱がせる。ガーゼを洗面器に入れ、沐浴布を裏にかけ、男児の把持(頭部と腰臀部)を正確に行い、湯温を確認、足のほうから浴槽の中に入れる。			男児を把持したまま肘内側で湯温を確認、足からゆくり入れる(この時、男児が沐浴槽にぶつからない位置にあるか確認)。
		③ ②の男児は石鹸をつけずに、ガーゼを人差し指に巻きつけて指腹で拭く。眼帯を考慮して左眼の目尻から眼帯の方向に拭く。			男児がお湯に濡れ落ちたらガーゼを顔拭き用の浴槽に濡し、人差し指に巻き付け、目尻から眼帯に向かって拭く。 眼帯を考え左目から拭く。
		④ ③一度拭いたガーゼをすすぐか、ガーゼの拭く場所を変えて、右眼を目尻から目頭の方向に拭く。その後顔全体を清拭する。			ガーゼをすすぐか、拭く場所を変え、左目と同様に右目を拭く。 さらにガーゼをすすぐ、顔全体をまんべんなく拭く(3の字、またはS字を描くように)。
		⑤ ④頭髮をガーゼで濡らし石鹸を泡立てて、円を描くように指腹で洗髪する。ガーゼを使ってすすぎ、頭部の水分をガーゼを絞って拭き取る。			湯を含ませたガーゼで頭髮を濡らし、手に石鹸をつけて指腹で洗髪する。 同じ湯を含ませたガーゼでよくすすぎ、ガーゼを絞って水分を拭きとる。
		⑥ ⑤首・前胸部、腹部は洗う部分だけ沐浴布をはずしながら石鹸をつけて洗う。			洗う部分だけ沐浴布を外しながら、首・前胸部、腹部の順に石鹸をつけて洗う。 皮膚の残っている部分はVの字を描くように洗う。 前胸部、腹部は手のひら前提を使い、円を描くように洗う。
		⑦ ⑥上肢を洗う時は石鹸を泡立て、前腕から上腕にかけてくるくる洗い、腕下まで洗う。手は小指側から沐浴布の指を入れて洗うか、要請者の腕指を握らせて洗う。石鹸がついた手を口にもっていくことがあるので、すぐにすすぐ。			石鹸をつけて前腕から上腕へ向けて洗う。 手は小指側から指を入れるか腕指を握らせて洗い、すぐにすすぐ。
		⑧ ⑦下肢を洗う時は、石鹸を泡立て下腿、大腿、鼠蹊部の順にくるくる洗う。			石鹸をつけて下腿から大腿へ向けて下肢を洗う。
		⑨ ⑧背中を洗う時は、沐浴布を取り、奥側の肩関節をしっかりと保持し、沐浴者の前腕に児の胸を乗せながら、児の背中を上にする。児の顔面が湯面につかないように注意して上から下へ洗い、ゆっ／＼仰向けにもどす。			沐浴布を外し左腕を下にして右手を入れて肩関節を保持し児の顔が湯につかないように、右前腕に児の胸と右上肢を乗せる。 左手掌全体を使い、後頭部から臀部に向かって洗う。 ゆっ／＼仰臥位に戻す。
		⑩ ⑨外陰部を丁寧に洗い、紅門部を洗う。補助者に足元からかけ湯をしてもらう。ゆずらずに湯からあげる。			真ん中、左右の順に、前から後ろへ向かって陰部を洗う。 石鹸をつけて紅門部を円を描くように洗う。 補助者に児の足元から上半身に向けてかけ湯をかけてもらう。 湯から上げるときはゆずらない。
		⑪ ⑩洗った後、児の身体全体を押さえ拭き、着衣は逆え袖で通す。紐を緩結びにし、オムツは臍部に当たらないように固定する。			バスタオルで全身を包み、水分が残らないよう身体全体を抑え拭きする。 着物は逆え袖をし、児の手を握って着物を手繰り寄せながら着せる。 紙おむつは臍に当たらないよう、また紐は自分のゆるみを持たせておく。
	⑫ ⑪臍輪部の水分を綿棒でふき取り、アルコール綿棒で消毒する。			乾いた綿棒で臍部についている水分を拭き取る。 綿棒にアルコールをしみこませ、臍輪部を消毒する。	
⑬ ⑫児の頭部を固定し、綿棒を用い、安全に配慮して耳・鼻の清拭を行う。頭髪をブラシで整える。			片手で頭を固定し、綿棒で鼻と耳を清拭する。この時、鼻腔や耳腔の奥に綿棒を入れない。 頭髪をブラシで整える。		
⑭ ⑬後片付けができる			リネン類、ゴミを片付け、次への準備ができる状態にする。		
職業倫理	個別性に配慮した対人関係の構築			声に声をかけながら実施できる。 *よく声をかけていればA、少し声をかけていればB、全く声をかけていなければC	
発語	沐浴が終わりました。指導者だと思つて報告してください。				
報告	報告			問題なく終了できたことが報告できる。 *報告できればA、報告内容が不十分であればB、できない場合はC	

評価基準 A:よくできる B:できる C:できない

学生1人ひとりに対して、演習を行った。1人の学生に要する時間は、演習及び演習後の振り返りを含め、1項目につき20分とした。時間内に演習が終了しなかった場合は演習途中で中止した。

演習終了後は学生と教員で振り返りを行い、良かった点、こうすればもっと良くなる点などをフィードバックした。

#### 4. 演習後の実習記録の記載

実習記録は、通常の臨地実習で使用している記録用紙と同様とした。演習終了後に、演習で得た母親役の教員からの言語的及び客観的情報を記載し、臨地実習と同様に評価・考察を行った。

#### 5. コロナ禍における感染対策

演習前には、健康チェックを行った。37.1度以上の発熱や感染に伴う随伴症状があった場合は、病院を受診し、感染症の可能性がない場合は演習への参加を可とした。

実習初日に標準予防対策が実施できるか、手洗い及び予防具着脱の技術チェックを行った。また、演習を行う前・後には、机やアルコール清拭できる物品は清拭した。モデル人形に触れる際には、手指をアルコール消毒し、手袋を着用した。沐浴以外の演習練習は原則、「母親役」「看護学生役」「録画担当者」3名で行った。各役割は不織布マスクを着用し、2m以上の間隔を取り実施した。演習練習及び演習時には入り口ドアや窓を開放し、常に換気できる状況を保った。

#### 6. 倫理的配慮

演習を実施する際には、学生への倫理的配慮および演習に集中できることを目的にパーテーション等で仕切るもしくはできるだけ個室となる教室を確保した。

### IV. 演習の工夫と課題

#### 1. 演習内容の精選

演習内容は2019年の臨地実習で、学生が経験していた項目から「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「沐浴」「妊婦健康診査」「保健指導」とした。学内実習であった学生にも、臨地実習で経験する内

表6 妊婦健康診査評価表

学籍番号	氏名	評価項目	学生自己評価	教員評価
		必要物品の手帳と確認ができる	A B C	A B C
		妊婦に診察の目的、方法が説明できる	A B C	A B C
		妊婦への配慮(プライバシー保護、声掛け、手を温めるなど)ができる	A B C	A B C
問診		前回の診察からの変化について聞くことができる	A B C	A B C
		本日の主訴、気になる点について聞くことができる	A B C	A B C
		分娩開始前後の有無を確認できる	A B C	A B C
体重、血圧、尿検査		体重測定結果について前回のデータを確認できる	A B C	A B C
		血圧値をアシストできる	A B C	A B C
		尿検査結果を確認できる	A B C	A B C
レオポルド腹部触診法		腹部触診の前に膀胱が膨んでいることを確認できる	A B C	A B C
		衣服を脱ぎ、ショーツを下げて腹部を確認できる	A B C	A B C
		触診に導く上、体位を助けるよう妊婦に説明できる	A B C	A B C
		レオポルド腹部触診法(第1位～第4位)を適切な手法で実施できる	A B C	A B C
子宮底長、胎頭測定		腹部触診の結果を確認し、妊婦に伝えることができる	A B C	A B C
		子宮底長、胎頭測定時適切な体位を助けるよう妊婦に説明できる	A B C	A B C
		子宮底長を適切に測定することができる	A B C	A B C
胎児心拍聴取		胎頭を適切に測定することができる	A B C	A B C
		レオポルド腹部触診法により胎児心拍の測定部位を確認することができる	A B C	A B C
		プローブを聴取箇所にあてることができる	A B C	A B C
浮腫の確認		1分間の心拍数とリズムを聴測し、測定できる	A B C	A B C
		下肢の浮腫の有無を確認できる	A B C	A B C
健康結果の説明		妊婦健康結果を妊婦にわかりやすく説明できる	A B C	A B C

評価基準: A:よくできる B:できる C:できない

容を演習として実施できた。分娩見学や胎盤計測は経験できない項目であったため、臨地実習の学生と比較して、学びに差が出ないように模擬胎盤計測や胎児心拍陣痛図の解説を臨床講義として行った。学生からは「周産期に必要な看護の理解が深まった」「臨床をイメージできた」という反応があった。

#### 2. 看護計画を立案してからの実施

臨地実習では学生は臨地実習初日に「新生児の健康観察」及び「褥婦の健康観察」を見学し、実習2日目に実施することが多い。学生は前日に見学した技術と学内演習や書籍に書かれている手順と比較して、実施に臨む。学内演習の場合は看護計画を立案した上で実施する。学生は演習時には個別的な問診や観察項目を立案した上で、演習に臨むことができる。その結果、立案した看護計画と実施との整合性が確保されていたと考える。

しかし観察項目が多くなれば、練習時間を含む準備時間は長くなる。「看護過程を展開する意味が理解できた」という意見があった一方で「時間がなく、大変だった」という学生からの意見があった。

臨地実習以上に思考のプロセスを踏まえた実践であったと考えられるが、学生によってはタイムマネジメントを含めた指導を行う必要があったと考える。

### 3. 演習を録画することの効果

学生には学校閉鎖時でも、指導を担保するために練習を録画するように指示していた。録画した映像を演習までに何度も見直し、演習に臨む学生がいた。繰り返し見直した学生は、自らの技術やコミュニケーション上の問題点に気づき、演習時には改善して実施していた。携帯電話を利用した動画撮影は学生にとっては、簡便で有益な手段であったと考える。今後も演習時の様子を録画し、振り返る機会を設けていきたい。

事例のアセスメントができていない学生と不十分な学生間に演習内容に明確な差があった。アセスメントができていない学生は入室時の母親への声かけでは、前日までの授乳回数や夜間授乳状況など母親の状況を十分に踏まえ母親への声かけを行っていた。特に問診においては、具体的かつ母親が答えやすい質問内容となっていた。実習前の授業内容を検討し、看護過程展開に向けた準備状態を強化する必要がある。

### 4. 教員からのフィードバック

演習終了後、教員は母親役としての視点と教員としての視点双方から学生にアドバイスした。学生は教員からのアドバイスを次に行う演習へのヒントとしていた。一方、学生によっては改善が見られない場合もあった。

臨地実習では実習指導者や母親からのフィードバックによって、改善に向かう学生もいる。母親から言語的、非言語的フィードバックを得ることで学習意欲につながる。コロナ禍で Web 会議システムを利用した保健指導<sup>5) 6)</sup>や劇団員模擬患者を活用した事例<sup>7)</sup>が報告されている。模擬患者もしくは母親に依頼することも含め、検討する必要がある。

### 5. 教員が母親役を行うことの効果と弊害

「褥婦の健康観察」「新生児の健康観察」「妊婦健康診査」「保健指導」については、教員が母親役となり演習を行った。学生は母親役の教員の表情や仕草から指導内容を理解できているか否かを判断し、指導を進めていく必要があった。学生が一方的な指導を行った場合や理解しづらい内容であった場合は「わかりません」と言語的に、もしくは表情や仕草で伝えるように工夫した。気づかなかった学生に対しては、演習後母親の立場から言語化して、フィー

ドバックした。

文部科学省及び厚生労働省<sup>7)</sup>は臨地実習を演習に代替する場合の留意点として「患者とのコミュニケーション能力を養う演習等可能な限り臨地に近い状況を設定し、演習を行うこと」としている。教員が母親として、忸度なく学生の間診や援助に呼応し、その後振り返りを行うことは、コミュニケーション能力を養うことにつながったと考える。

一方で、学生の中には評価者である教員が母親役であるため威圧感を受け、演習に集中できなかった学生もいる可能性はある。学生の個別性を考慮し、方法を検討する必要がある。

## V. おわりに

本年度コロナ禍において、学内演習を計画するにあたり、昨年度の臨地実習に近づける内容を工夫した。さらに実習計画立案においては、臨地実習が全日中止、実習途中での中止でも学内実習に移行可能なプログラムを検討し実施した。

実現できるのか不安を覚えながらスタートした内容であったが、学生の多くが実習に真剣に取り組み、概ね予定通りに実施した。「明日はリモートでの実習になるかもしれない」という不安定な状況の中で、学生は毎日課題に取り組み、学内でしかできない内容を優先し、演習に取り組んでいた。

コロナ禍で臨地実習の経験は少ない学生であるが、コロナ禍を経験した学生だからこそ看護過程を展開する思考力や優先順位をつけて行動すること、さらに「なぜこの演習は必要なのか」「なぜ臨地実習が必要なのか」等今までは何も疑問に持たず享受していた事柄に、疑問を持ち取り組む力は十分身についたと感じている。

母親役として演習に参加した際には「この学生さんに受け持ってもらってよかったな」と感じさせてくれた学生もいた。学生の頑張りや触発され、教員も今できる最良の方法を検討し、取り組むことができた。

教員は母親役に徹したが、教員が評価者である以上、学生にとっては脅威を感じる存在であることは否めない。また、1週目に臨地実習を経験した学生は、全日学内実習であった学生と比較して、演習時の声かけや保健指導時の説明の仕方が対象者にあっ

た適切であることが多かった。臨地実習で対象者と関わったことで、受け持ち褥婦や新生児をイメージし、声かけ等に差が見られた可能性がある。改めて臨地実習で対象者と接し、対象者の看護を考えていく重要性を認識した。今後はリモートや学内実習下においても、乳幼児を持つ母親の協力も視野に入れながら母子との関わりを再現できるような方法を検討していきたい。

今後、学生からのアンケートを収集し本実習における実施内容について学生からの視点を含め評価を行っていききたい。

### 【文献】

- 1) 厚生労働省：平成 27 年 9 月 1 日付け事務連絡「母性看護学実習及び小児看護学実習における臨地実習について」
- 2) 総務省：令和元年（2019）人口動態統計（確定数）の概況2021, [https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/dl/04\\_h2-1.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/dl/04_h2-1.pdf) [2021. 4. 4アクセス]
- 3) 川端愛子ら：母親アドバイザーを活用した母性看護学実習プログラム開発, コミュニケーション障害研究, (16), 33-44, 2016.
- 4) 草薙美穂ら：母子看護学臨地実習における段階的実習と選択的実習の効果, 天使大学紀要 (16) 2, 5-15, 2016.
- 5) 細川陸也, 平和也, 塩見美抄. 京都大学における COVID-19 流行下の保健師家庭教育実習①. 保健師ジャーナル. 2020 ; Vol. 76 No. 10.
- 6) 塩見美抄, 細川陸也, 平和也. 京都大学における COVID-19流行下の保健師家庭教育実習②. 保健師ジャーナル. 2020 ; Vol. 76 No. 11.
- 7) 相撲佐希子ら：劇団員模擬患者を活用したリアリティのある実習への挑戦, 看護教育62 (1), 56-61, 2021.
- 8) 文部科学省, 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師養成所等における臨地実習の取り扱い等について. [令和2年6月23日付 事務連絡] [https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)2021/5/31 検索

### 【注釈】

- 1) 礒山 あけみ他：看護過程から学ぶ！母性看護学実習 Vol. 1～4. 医学映像教育センター
- 2) 森恵美：母性看護学各論, 2018医学書院；第13版
- 3) 齋藤 いずみ他：目で見ると母性看護第2版 Vol. 3 妊婦健康診査と保健指導 妊娠後期. 医学映像教育センター

資料1

## 母性看護学実習計画

(第1週)

曜日	目標	実習内容
月	1 実習の概要を理解できる。	実習全体オリエンテーション 受け持ち褥婦・新生児決定
	2 DVDを閲覧し、褥婦、帝王切開褥婦に必要な援助技術を理解できる	DVD視聴(褥婦の看護・帝王切開褥婦の看護)
	3 提示される産褥期の患者情報を閲覧し情報を収集することができる	紙面で提示される、産褥経過について情報を収集する。情報をアセスメントシートに記載し、分析する。
	4 褥婦と新生児の概要を説明することができる	情報収集の内容を踏まえ、褥婦と新生児の概要を実習メンバー及び教員にカンファレンスで説明する
	5 本実習における課題を明確にできる	明日の行動目標・計画を様式1に記載し、提出する
火	6 提示される患者情報を閲覧し情報を収集することができる	行動目標・計画発表 紙面で提示される患者情報から情報収集し、分析する。
	7 ペーパー内容で不足している情報を整理し、問診の方法と内容を学生同士で検討することができる。	同じ患者を受け持っている学生同士で、問診内容と方法を整理し練習する。
	8 明日の実習目標および行動を明確にできる	明日の行動目標・計画を様式1に記載し、アセスメント用紙(様式2)とともに提出する
水	9 本日の行動を明確化できる	行動目標・計画発表
	10 ペーパー内容で不足している情報を模擬患者(教員)から収集することができる	模擬患者(教員)に問診を行い、不足している情報を収集する。
	11 アセスメントに基づき、対象者のケアニーズを明らかにし、看護上の診断を抽出できる。	情報を整理、追加修正し、看護診断を抽出する。
	12 明日の実習目標および行動を明確にできる	明日の行動目標・計画を様式1に記載し、アセスメント用紙(様式2)、関連図(様式3)とともに提出する
木	13 母子とその家族に対して、根拠に基づいた看護が計画できる。	行動目標・計画発表 個別指導を受け、様式2、3を追加修正し、看護計画を立案する。
	14 DVDを閲覧し、妊婦と新生児の看護に必要な援助技術を理解できる	DVD視聴(新生児の看護・妊婦の看護)
	15 留意点を踏まえ、周産期に必要な技術を模擬患者やモデルを用いて実践できる	演習:褥婦および新生児の健康アセスメント、妊婦健診、沐浴のシミュレーション演習を実施する
	16 留意点を踏まえて、胎盤計測を演習することができる。分娩監視装置を装着することができる。	模擬胎盤を用いて、胎盤計測する。 分娩監視装置を学生同士で装着する。
	17 明日の実習目標および行動を明確にできる	明日の行動目標・計画を様式1に記載し、アセスメント用紙(様式2)、関連図(様式3)、看護計画(様式4)とともに提出する
金	18 看護の視点を明確化することができる	行動目標・計画発表 各事例ごとに立案した計画を発表する
	19 技術演習を実施し、ビデオ録画できる	演習:褥婦および新生児の健康アセスメント、妊婦健診、沐浴のシミュレーション演習を実施し、ビデオ録画し、提出する。
	20 来週の実習目標および行動を明確にできる	明日の行動目標・計画を様式1に記載し、アセスメント用紙(様式2)、関連図(様式3)、看護計画(様式4)とともに提出する

(第2週)

曜日	目標	実習内容
月	1 対象者の個性を考えた保健指導案を作成できる	保健指導案を作成する。
	2 明日の実習目標を明確にし行動計画を立案できる	翌日の行動目標・計画の作成とキャンパススクエアへの投函
火	3 技術演習の計画を立案できる	演習計画案作成・演習準備(演習に必要な物品を確認し準備する)
	4 提示された妊婦のアセスメントを行い、妊婦健診の演習計画を立案できる。	提示された妊婦事例をアセスメントし、胎児と母親に必要な看護を日々の記録に記載する。
	5 NSTモニター所見から胎児と母親の状態をアセスメントできる	提示されたNSTモニターをアセスメントし、胎児と母親に必要な看護を日々の記録に記載する。
	6 明日の実習目標を明確にし行動計画を立案できる	翌日の行動目標・計画の作成とキャンパススクエアへの投函
水	7 演習計画に沿って技術演習を実施できる	演習:褥婦および新生児の健康アセスメント、妊婦健診、沐浴のシミュレーション演習を実施する
	8 演習の振り返りを行い、評価できる	演習の振り返りと実施結果の記録をする。
	9 明日の実習目標を明確にし行動計画を立案できる	翌日の行動目標・計画の作成とキャンパススクエアへの投函
木	10 保健指導案に沿って保健指導を実施できる	演習:保健指導を実施する。
	11 保健指導を振り返り、保健指導案を修正し、評価できる	演習の振り返りと実施結果の記録をする。
	12 最終カンファレンスの資料作成ができる	最終カンファレンスの準備(資料作成)
	13 明日の実習目標を明確にし行動計画を立案できる	翌日の行動目標・計画の作成とキャンパススクエアへの投函
金	14 最終カンファレンスに参加し、自己の学習内容の振り返りと学習課題を明確にすることができる	最終カンファレンス
	15 教員の指導や助言、2週間の実践を踏まえて記録の使や修正ができる。	記録のまとめ
	16 最終の記録提出ができる	全ての記録を印刷し教員に提出するとともにキャンパススクエアへの投函